

「中野区地域医療検討会」による検討結果について

「新しい中野をつくる 10 年計画（第 3 次）」で、中野中学校跡地に地域医療機関を誘致するにあたり、中野区における地域医療の現状と課題を明らかにし、今後の医療連携の中で病院に担ってもらうべき機能について、中野区地域医療検討会を設置し、検討したので報告する。

報告書の主な内容

- 1 中野区における地域医療の現状と課題
- 2 中野区地域医療検討会での議論の経過
 - 第 1 回 平成 28 年 10 月 20 日（木）
 - 第 2 回 平成 28 年 11 月 10 日（木）
 - 第 3 回 平成 28 年 12 月 8 日（木）
- 3 地域医療機関に期待する機能・付加機能について
 - (1) 地域医療機関に期待する機能
 - ① 中野区の総合的な医療拠点としての強化・充実
 - ② 地域を支える医療の推進
 - ③ 優秀な医療人材の確保と育成
 - ④ 快適で機能的な病院の施設整備と通院環境の整備
 - ⑤ 健全な運営による経営の確立
 - (2) 地域医療機関に期待する付加機能
 - ① 地域で取り組む妊娠・出産・子育てができる医療供給体制への寄与
 - ② 地域の医療機関と連携した、かかりつけ医による在宅医療の支援体制の強化
 - ③ 災害拠点病院としての機能の確保
 - ④ 地域の発展に寄与する地域貢献事業の実施
- 4 報告書全文
別添のとおり

中野区地域医療検討会報告書

平成 29 年（2017 年）3 月

健康福祉部 福祉推進分野

1 はじめに

高齢化の進展に伴い、医療需要が増大する中で医療介護総合確保推進法が公布されました。その公布を受け「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」が告示され、医療計画の一部としての地域医療構想やその実現のための協議の場の設置などの位置づけが明確となりました。こうした流れの中で、東京都においても「東京都地域医療構想調整会議」が設置され協議が進んでいきます。

東京都では、少子高齢化がさらに進展する2025年に向けた効率的で質の高い医療提供体制を確保し続けるためのグランドデザインを定めることとしました。誰もが住み慣れた地域や自らが望む場での暮らしを続けていくためには、医療連携を進め、地域医療体制を強化していくことが大切です。

東京都保健医療計画で区分する二次保健医療圏では、中野区は、新宿区、杉並区とともに構成する区西部保健医療圏に属しています。圏域内には高度な医療を提供する病院等も集積しており、医療資源が著しく不足する状況ではありません。しかし、区別に見ると医療資源が新宿区に集中していることもあり、中野区民にとって安心して暮らせるよう、区内における地域医療体制の構築を推進することが必要です。

中野区内の中央線南側の地域では、地域医療の拠点を担える大規模な病院は2か所ありましたが、建て替え等による移転のため現在は1か所となっています。

今後医療機関の建て替え等による影響も踏まえ、区は、「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」で、平成28年から平成29年の第1ステップの期間から中野中学校跡地に地域医療機関を誘致することとしました。そこで中野区における地域医療の現状と課題を明らかにするとともに、区内の中央線南側の地域において医療連携の中で病院に担ってもらうべき機能について、地域包括ケア推進等を視野に入れて、中野区医師会との協議を行うこととし、中野区地域医療検討会を設置し、検討しましたので、ここに報告します。

2 中野区における地域医療の現状と課題

中野区の合計特殊出生率は、近年上昇傾向にありますが、現在、区内に小児病床を備えた病院はありません。また、現在、区内の中央線南側の地域では、地域医療の拠点を担える大規模な病院は1か所となっていることから、今後医療機関の建て替え等による影響も踏まえ、小児病床を備えた総合的な医療を提供できる病院の立地を確保する必要があります。

中野区のめざす安心して産み育てられるまちの体制整備には、現在実施している中野区小児初期救急医療事業を拡充し、小児の二次救急医療体制の整備や、小児医療体制を活かした病児・病後児保育の実施が求められています。

また、超高齢社会を迎え、中野区においても高齢化率は年々上昇しています。今後、中野区の将来を見据えた地域包括ケア推進等を視野に入れた地域力の向上には、病院と診療所、訪問看護ステーションなどの関係機関が連携し、地域医療を強化していくことが重要です。在宅医療を担うかかりつけ医の普及を一層推進するとともに、病院は、病状急変時などの受入れ病床の確保や地域医療に携わる機関の資質向上への貢献など、後方支援としての機能を発揮する必要性が高まっています。

休日診療事業の継続や24時間365日対応可能な区内での二次救急医療体制の確保により、区民の休日及び夜間における医療不安の軽減を図ることが必要です。さらに、区と連携を強化した災害拠点病院を確保し、災害発生時には速やかに医療救護活動が行える体制を整備する必要があります。

3 中野区地域医療検討会での議論の経過

第1回 平成28年10月20日(木)

議題

- 「中野区地域医療検討会」の設置目的及び検討事項、スケジュールの確認
- 中野区における地域医療の現状と課題について
- 新病院に求める基本的機能について

資料1：「中野区地域医療検討会の設置」について

- 2：中野区地域医療検討会名簿
- 3：「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」における施策の展開
- 4：中野区医療機関数内訳（日常生活圏域別）
中野区休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）
- 5：中野区小児初期救急医療事業
- 6：医療に関する中野区意識調査結果
- 7：東京都地域医療構想（概要版）
- 8：中野区関連事業の現況
- 9：中野中学校跡地へ立地する地域医療機関に期待する基本的機能（案）

中野区における病院や診療所などの医療資源の現状やかかりつけ医の保持率、身近な地域の医療体制の充実に向けた区の施策展開などについての情報交換や小児医療体制の整備や医療連携、休日診療、医療の質の担保をはじめとした中野区での地域医療の現状と課題についての把握を行いました。その中で、二次保健医療圏としての医療機能は充足しているが、地域包括ケア推進等を視野に入

れ、中野区の地域医療としての充実強化を図る必要性があるという意見が出されました。そのうえで、区民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域医療体制の充実に向けて、総合的な医療拠点としての強化・充実など新病院に求める基本的機能について議論しました。

第2回 平成28年11月10日(木)

議題

- 新病院に求める付加機能について
- ① 小児医療体制に関すること
- ② かかりつけ医による在宅医療の支援体制に関すること
- ③ その他、地域医療に関すること

資料1：第1回中野区地域医療検討会議事要録

2：子どものかかりつけ医の保持率調査について

3：中野中学校跡地へ立地する地域医療機関に期待する付加機能（案）

第1回検討会で課題となった中野区の子どものかかりつけ医の保持率については、中野区の医療資源と区の施策を相互連携して推進してきたことによる高い成果が確認されました。今後も小児病床の確保や小児の急性期医療への対応など小児医療体制を充実していくことについて意見が出されました。また、区民が安心して身近な地域で医療を受けたり相談ができるよう、かかりつけ医（歯科医、薬局含む）を推進していくとともに、医療連携体制の強化や多様に活用できる病床の確保など、かかりつけ医による在宅医療の支援体制に関することを中心に、地域包括ケア推進等を視野に入れ、新病院に求める付加機能について議論しました。

第3回 平成28年12月8日(木)

議題

- 地域医療機関に期待する機能・付加機能について

資料1：第2回中野区地域医療検討会議事要録

2：地域医療機関に期待する機能・付加機能について（案）

3：中野区地域医療検討会報告書 構成案

第1回と第2回の検討会での議論を踏まえ、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場での暮らしを続けていくためには、医療連携体制の強化を図り、地域医

療資源の効果的な活用を推進する必要があることについて意見が出されました。

このことから、中野中学校跡地に医療機関が立地するにあたり、地域医療の拠点を担える大規模な病院が、現在1か所のみとなっている区内中央線南側の地域において、地域包括ケア推進等を視野に入れ、医療連携の中で病院に担ってもらうべき機能について「地域医療機関に期待する機能・付加機能について」(案)の集約を行いました。

4 地域医療機関に期待する機能・付加機能について

第1 地域医療機関に期待する機能

1 中野区の総合的な医療拠点としての強化・充実

区民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、小児を含む救急医療や回復期医療など地域になくてはならない医療の強化充実を図り、総合的な医療を提供できる地域の中核病院としての機能を発揮する。

中野区休日診療事業へ参加するとともに、24時間365日対応可能な区内での二次救急医療体制を確保し、区民の休日及び夜間における医療不安の軽減に寄与する。

2 地域を支える医療の推進

地域包括ケア推進等を視野に入れ、かかりつけ医や在宅医療を行う医師、歯科医師、薬剤師と連携し支援するとともに、訪問看護、介護、福祉などの機関との連携を強化し、中野区における地域医療体制の構築に寄与する。

3 優秀な医療人材の確保と育成

優秀な医療人材を確保するとともに、医療技術の研究と知識の習得に努め、安全で質の高い医療を提供する。

4 快適で機能的な病院の施設整備と通院環境の整備

多様化する医療機能へ対応した、快適で機能的な施設に加え、医療従事者の勤務環境に配慮した設備を整備するとともに、地域に開かれた機能を有し、地域の医師をはじめとした医療に関連する多職種を支援する拠点機能を持つ。

誰もの利便性に配慮した、病院の立地状況に適応する通院環境を整備し、身近な医療機関としての機能を発揮する。

5 健全な運営による経営の確立

将来にわたり安定して医療機能を発揮できるよう、効率的で健全な運営を確立する。

第2 地域医療機関に期待する付加機能

1 地域で取り組む妊娠・出産・子育てができる医療供給体制への寄与

産科医療体制へ参画するとともに、区や関係機関との連携を強化し、妊娠から出産、子育てにいたる一貫した支援体制の推進に貢献する。

小児病床を含む小児医療体制を整備し、子どもを安心して産み育てられる環境整備に寄与するとともに、小児医療体制を活かした病児・病後児保育を実施し、安心して子育てができるための支援体制に寄与する。

2 地域の医療機関と連携した、かかりつけ医による在宅医療の支援体制の強化

地域医療を支援するための病院機能を発揮し、地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供や検査を実施するとともに、かかりつけ医の逆紹介や意識啓発によるかかりつけ医の推進に取り組み、医療連携体制の強化に寄与する。

急性期からの受入れや在宅・生活復帰支援、緊急時の受入れ、レスパイトなどの機能を持つなど、多様に活用できる病床を確保し、安心して在宅医療を受けられる環境整備に貢献する。

状態に応じた適切なリハビリテーションを提供するとともに、リハビリテーション医療の充実を図り、区民が住み慣れた地域で自らの持てる力を発揮して暮らせるよう支援体制の一翼を担う。

緩和ケアに対応した終末期の過ごし方の選択としての病床を確保し、選択肢として地域で生活するための支援体制の実現に寄与する。

地域医療機関の医療従事者の資質向上のための研修を支援し、地域医療の質の確保に貢献する。

3 災害拠点病院としての機能の確保

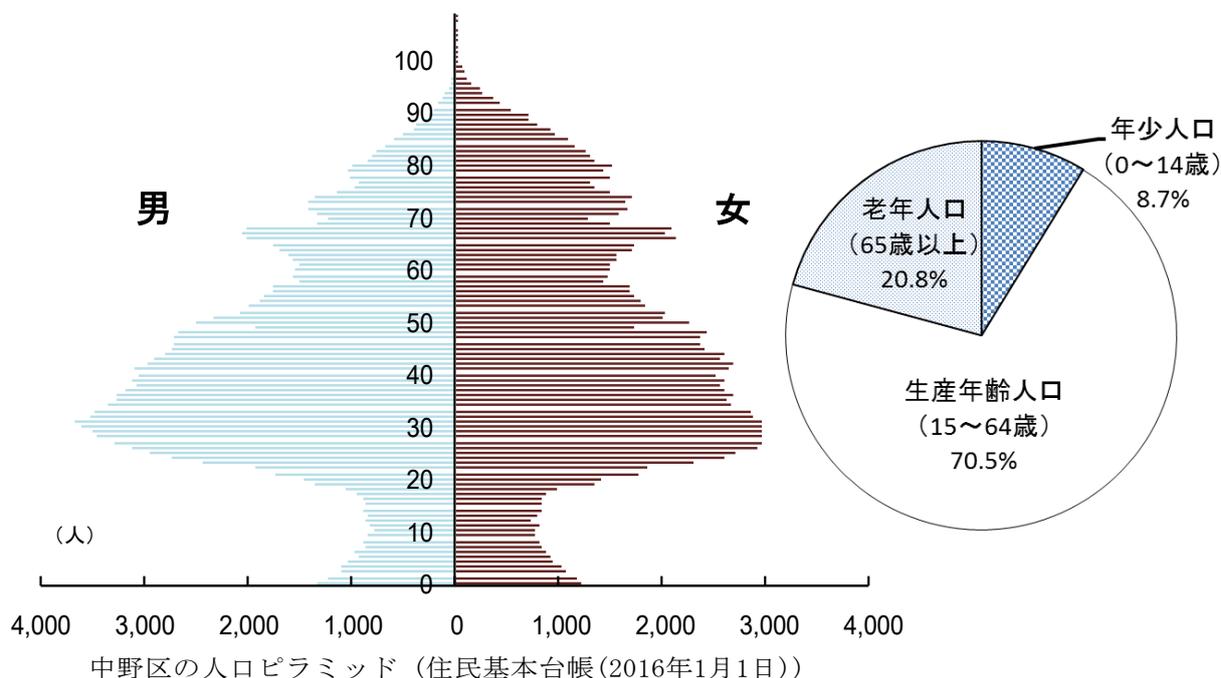
災害発生時、速やかに医療救護活動への機能転換ができる施設整備・設備配置を確保するとともに、中野区との連携強化を推進し、災害時医療体制に協力する。

4 地域の発展に寄与する地域貢献事業の実施

地域の身近な医療機関として、地域の発展に寄与する地域貢献事業を実施する。

5 参考資料1 中野区の現況

人口構成



2016年1月1日現在、人口は321,734人(住民基本台帳登録者)、世帯数は194,834世帯で、23区中では中位です。1世帯あたりの人員は1.65人で、23区全体の1.87人と比較しても少なく、新宿区、豊島区に続き渋谷区と並んで第3位の低さとなっています。

年々1世帯あたりの人員は減少、世帯数は増加しています。世帯の6割超が単身世帯です。老年人口(65歳以上)に占める単身世帯高齢者は3割台半ばとなっています。

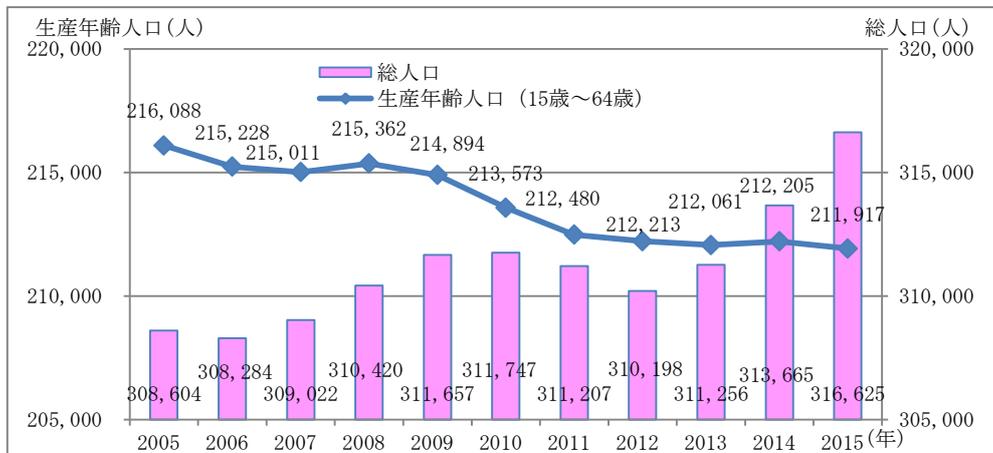
男女別の人口は、男性162,336人、女性159,398人で、女性100に対する男性の割合が101.8となっています。23区全体の割合97.1と比較しても、男性の割合が多くなっています。

人口構成の特徴としては、20歳代後半から30歳代前半の若年層が比較的多いことがあげられます。平均年齢は、男性42.67歳、女性45.93歳、男女総数では44.29歳です。

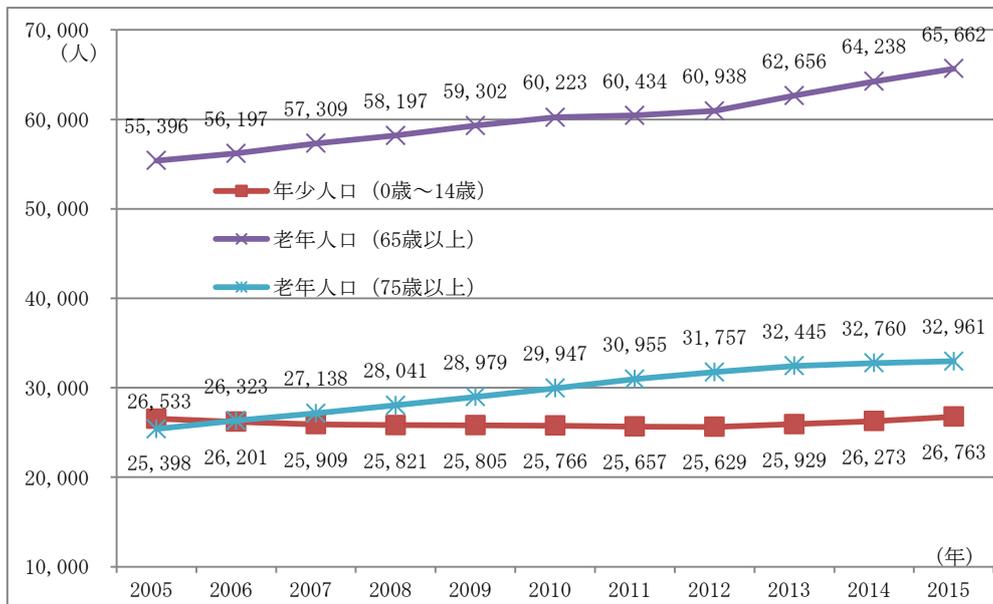
人口構成比は、年少人口(0歳~14歳)が8.7%、生産年齢人口(15歳~64歳)が70.5%、老年人口(65歳以上)が20.8%です。23区全体の構成比の、年少人口11.3%、生産年齢人口67.1%、老年人口21.6%と比較すると、特に年少人口の比率が少なく、新宿区に続き、豊島区と並んで第2位の低さとなっています。

人口密度は1km²あたり20,637人で、23区全体の14,689人と比較しても極めて高く、23区中では豊島区、荒川区に続いて第3位となっています。区内においては、特に南部の地域に高い傾向が見られます。

総人口・年少人口・生産年齢人口・老年人口の推移



中野区の総人口・生産年齢人口の推移 (※)



中野区の年少人口・老年人口 (65歳以上、75歳以上) の推移 (※)

※ (総人口：住民基本台帳等 (日本人・外国人)、年齢3区分人口：住民基本台帳 (日本人)、各年1月1日)

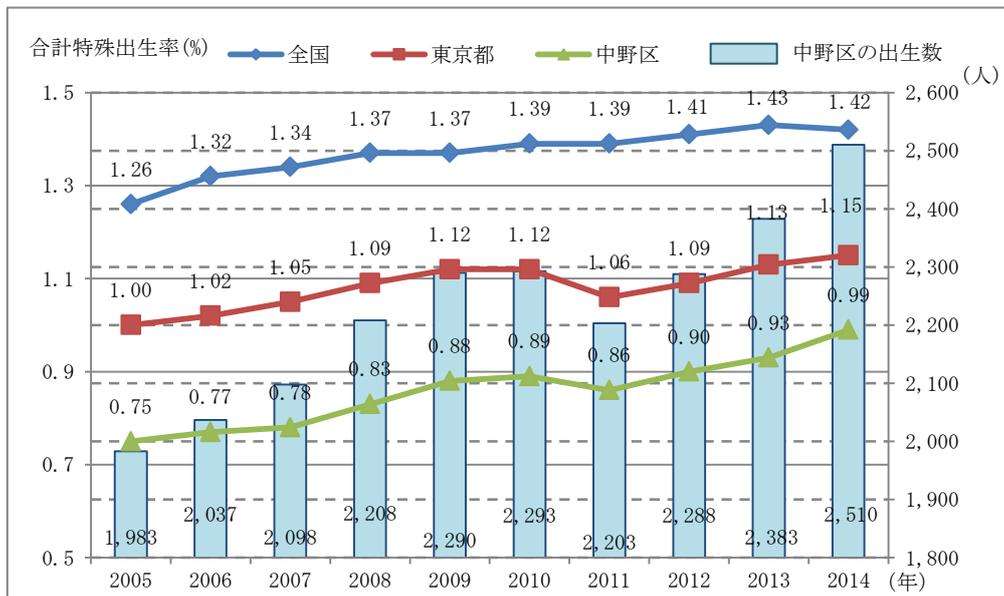
日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えています。中野区の総人口は増加の傾向があります。特に2014年以降は増加傾向が顕著になっています。

生産年齢人口 (15歳～64歳) は、減少が続いていますが、近年は、減少傾向が緩やかです。

年少人口 (0歳～14歳) は、減少が続いていましたが、2013年より微増となっています。これは、出生数の増加も影響していると考えられます。

老年人口 (65歳以上) は、増加が続いており、特に75歳以上の占める割合が高くなってきています。今後は、この傾向が更に続く見込みです。

合計特殊出生率・出生数の推移



合計特殊出生率（全国・東京都・中野区）・中野区の出生数の推移
（東京都人口動態統計）

2014年の中野区の「出生数」は2,510人で前年より127人増加し、2006年以降連続で2,000人を上回りました。男女別内訳では、男児が1,296人、女児が1,214人で、男児が女児より82人、6.8%多く出生しました。「出生率」（人口千対）も7.9で、前年の7.5を上回りました。

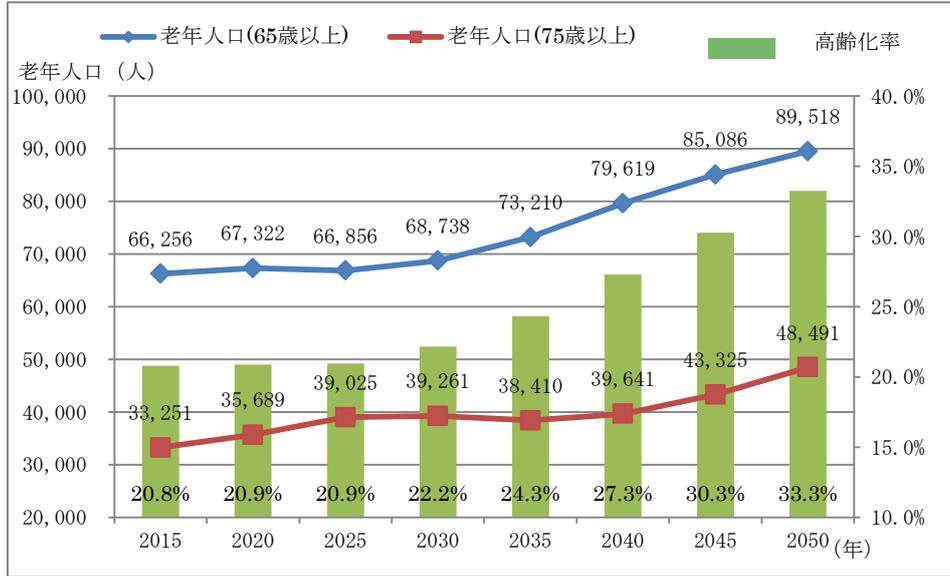
同年の中野区の「合計特殊出生率」（※）は0.99でした。1970年代以降低下が続きましたが、2006年に前年を上回って以降上昇が続いています。しかし、全国の1.42、東京都の1.15と比較して依然低い値で、人口を維持するのに必要な水準である2.08を大幅に割り込んでいます。

母の年齢別出生数は、30～34歳、35～39歳、25～29歳の順に多く、30歳代の出生数が増加傾向にあります。

出生順位別の出生数では、第1子は63.6%、第2子は29.5%、第3子以上は6.9%となっています。

※合計特殊出生率：「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当します。

老年人口・高齢化率推計



中野区の老年人口・高齢化率の推移

(新しい中野をつくる10か年計画(第3次))

老年人口、高齢化率とも2025年ごろまではほぼ横ばいですが、それ以降は急激に増加し、超高齢社会となる予測です。

(中野区における近年の人口増加等の傾向、国の全国・地域別推計動向を踏まえた推計)

日常生活圏域別人口等



中野区の日常生活圏域別人口等

(人)

	南部	中部	北部	鷺宮
面積 (km ²)	2.96	4.48	4.31	3.84
人口	72,651	97,606	83,467	71,547
人口密度 (人/km ²)	24,544	21,787	19,366	18,632
年少人口	6,004	7,933	7,440	7,124
生産年齢人口	51,438	71,129	57,846	48,797
老年人口(65歳以上)	15,209	18,544	18,181	15,626
老年人口(75歳以上)	7,747	9,404	9,254	8,215
高齢化率 (%)	20.9	19.0	21.8	21.8

(＜参考数値＞保健福祉に関する基礎データ(2017年2月))

「日常生活圏域」の区域は、人口、町会・自治会の区域、地域活動の状況、交通事情等を考慮して定めることとなっており、中野区では南部・中部・北部・鷺宮の4つの区域に設定しています。

各圏域については、南部圏域の人口密度は鷺宮圏域の1.32倍と高く、中部圏域では他圏域と比較して生産年齢人口が多く、北部圏域と鷺宮圏域の高齢化率が高いなど、区内でも圏域による違いが見られます。

参考資料2 中野区の医療環境

中野区内の医療機関数内訳＜日常生活圏域別＞等

中野区内の病院・診療所数の内訳＜日常生活圏域別＞

	区全体	南部	中部	北部	鷺宮
病院数	8	0	4	4	0
内科	8	0	4	4	0
小児科	3	0	2	1	0
外科	6	0	4	2	0
歯科	2	0	0	2	0

	区全体	南部	中部	北部	鷺宮
診療所数	324	62	126	81	55
内科	196	38	79	47	32
小児科	77	24	18	19	16
外科	44	13	17	7	7
精神科	18	4	9	1	4
皮膚科	54	13	25	9	7
産婦人科	17	5	7	4	1
整形外科	36	8	14	9	5
眼科	38	6	16	10	6

(中野区保健所届出台帳 (2017年2月16日))

区内には、病院は8機関、診療所は324機関あります。

日常生活圏域別に見ると、特に中部圏域に集積がみられます。なお、南部圏域と鷺宮圏域には病院がありません。

区内の病院では、1機関が準夜間における小児初期救急医療を365日実施しています。また、6機関が24時間365日入院治療を必要とする救急患者に対する「二次救急医療機関」に、2機関が災害時に医療救護所と連携して、主に中等症又は容態の安定した重症者の収容・治療を行い、医療救護活動の拠点となる「災害拠点病院」に、東京都より指定されています。

区内の医療機関、その他の関係機関が連携を強化し、区民が安心して暮らせる中野区の地域医療体制における機能を発揮しています。

二次保健医療圏(中野・新宿・杉並)、三次保健医療圏(都全域)における病院数等

区西部保健医療圏・三次保健医療圏(都全域)における病院数等

	病院数	診療所数
二次保健医療圏	42	1,404
区西部保健医療圏(中野・新宿・杉並)		
<内訳> 中野区	(8)	(324)
新宿区	(15)	(591)
杉並区	(19)	(489)
三次保健医療圏 (東京都の全域)	642	12,780

(中野区の実数・診療所数：中野区保健所届出台帳(2017年2月16日))

(その他：東京都「医療施設(静態・動態)調査・病院報告結果報告書」(2014年10月1日))

東京都保健医療計画では、都全域を、複数の区市町村を単位とする13の二次保健医療圏に区分しています。中野区は、新宿区・杉並区とともに構成する区西部保健医療圏に属しています。

区西部保健医療圏には、病院は42機関、診療所は1,404機関あります。

新宿区には、高度な医療の提供や高度な医療技術の開発等ができる「特定機能病院」や生命危機を伴う重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を受け入れる「救命救急センター(三次救急医療機関)」、出産前後の母体・胎児や新生児に対する高度で専門的な医療に対応できる「周産期母子医療センター」などの医療機関が集積しています。

さらに、東京都全域でみると、「特定機能病院」をはじめとした高度な医療や先進的な医療を提供する医療機関が集積しており、都内だけでなく隣接3県(埼玉県、千葉県、神奈川県)を中心に、他県からも数多くの患者を受け入れています。

中野区における救急出場件数・搬送状況

中野区における救急出場・搬送状況 (人)

	出場件数	搬送人員 (総数)	搬送人員(総数)のうち0~15歳			搬送人員(総数)のうち65歳以上		
			搬送人員	搬送先		搬送人員	搬送先	
				区内	区外		区内	区外
27年度	17,090件	15,071	1,033	414	619	7,880	1,884	5,996
26年度	17,295件	15,286	1,059	196	863	7,727	4,152	3,575
25年度	16,953件	14,960	952	170	782	7,659	4,018	3,641

(東京消防庁統計)

東京都における救急隊の出場件数は、毎年増加を続けていますが、中野区においては、平成27年度は前年度に比べ、わずかに減少しています。

搬送人員の年齢内訳を見ると、0歳~15歳が6%台、65歳以上が50%台前半で推移しており、経年で大きな変化はみられません。

なお、平成28年10月に中野消防署東中野出張所に救急隊が1隊増え、野方消防署と合わせ区内の救急隊が6隊となり、救急要請に対する取り組みが強化されました。しかし、今後の高齢化の進展に伴い救急要請の増加が見込まれることから、救急車

の適正利用を進める必要があります。

中野区休日診療事業

中野区休日診療事業実施状況

		実施日数	延実施医療機関数	利用状況（延利用人数）			
				合計	すぐに手術が必要な者または病院移送を要する者	当日診療を必要とする者	平日でも診療可能な者
27年度	年度実績	72	432	11,530	363	9,755	1,412
	1医療機関1日あたりの平均			26.7	0.8	22.6	3.3
26年度	年度実績	72	432	13,760	332	11,957	1,471
	1医療機関1日あたりの平均			31.9	0.8	27.7	3.4
25年度	年度実績	71	426	11,623	450	9,661	1,517
	1医療機関1日あたりの平均			27.3	1.1	22.7	3.6

（中野区休日診療事業実績報告）

中野区休日診療事業は、日曜日、国民の祝日、年末年始の休診日に医療機関が当番制で診療を行うことで、区民の不安や不便を軽減し、区民の健康を守ることを目的とする事業です。

区内の医療機関が当番制で、1休日に南北各3か所（病院1か所、診療所2か所）の計6か所で診療を行っています。年間の平均では、1医療機関1日あたり30人前後が受診しています。

○実施日：日曜日、祝日、年末年始

○診療時間：午前9時～午後5時

中野区休日歯科診療事業

中野区休日歯科診療事業実施状況

		実施日数	延実施医療機関数	利用状況（延利用人数）		
				合計	当日診療を必要とする者	平日でも診療可能な者
27年度	年度実績	23	49	313	313	-
	1医療機関1日あたりの平均			6.4	6.4	-
26年度	年度実績	22	47	319	319	-
	1医療機関1日あたりの平均			6.8	6.8	-
25年度	年度実績	22	47	333	333	-
	1医療機関1日あたりの平均			7.1	7.1	-

（中野区休日歯科診療事業実績報告）

中野区休日歯科診療事業は、国民の祝日、年末年始の休診日に歯科医療機関が当番制で歯科診療を行うことで、区民の不安や不便を軽減し、区民の健康を守ることを目的とする事業です。

区内の歯科医療機関が当番制で、1休日に南北各1か所の計2か所で歯科診療を行

っています。ただし、12月30日、31日及び1月2日は3か所で実施しています。
 年間の平均では、1歯科医療機関1日あたり7人前後が受診しています。

○実施日： 祝日、年末年始 ○診療時間： 午前9時～午後5時

中野区休日調剤薬局事業

中野区休日調剤薬局事業実施状況

		実施 日 数	延実施 薬局数	利用状況（延利用人数）					
				合 計	内科	小児科	外科	歯科	その他
27年度	年度実績	72	144	6,096	5,588	297	0	28	183
	1薬局1日あたりの平均			42.3	38.8	2.1	0.0	0.2	1.3
26年度	年度実績	72	144	7,747	6,555	920	0	34	238
	1薬局1日あたりの平均			53.8	45.5	6.4	0.0	0.2	1.7
25年度	年度実績	71	142	6,813	5,541	971	0	50	251
	1薬局1日あたりの平均			48.0	39.0	6.8	0.0	0.4	1.8

（中野区休日調剤薬局事業実績報告）

中野区休日調剤薬局事業は、日曜日、国民の祝日、年末年始の休診日における急病患者に対する応急調剤を確保することで、区民の不安や不便を軽減し、区民の健康を守ることを目的とする事業です。

区内の調剤薬局が当番制で、1休日に南北各1か所の計2か所で調剤を行っています。ただし、ゴールデンウィーク及び年末年始は4か所で実施しています。年間の平均では、1調剤薬局1日あたり50人前後が利用しています。

○実施日： 日曜日、祝日、年末年始 ○調剤時間： 午前9時～午後5時30分

中野区歯科医療拠点事業

中野区歯科医療拠点事業実施状況

		実施 日 数	延実施 医療機 関数	利用状況（延利用人数）	
				歯科救急 電話相談	歯科診療
27年度	年度実績	49	49	26	117
	1日あたりの平均			0.5	2.4
26年度	年度実績	50	50	140	89
	1日あたりの平均			2.8	1.8

（中野区歯科医療拠点事業実績報告）

中野区歯科医療拠点事業は、日曜日における歯科急病患者の歯科救急電話相談及び歯科診療を行うことで、区民の不安や不便を軽減し、区民の健康を守ることを目的とする事業です。

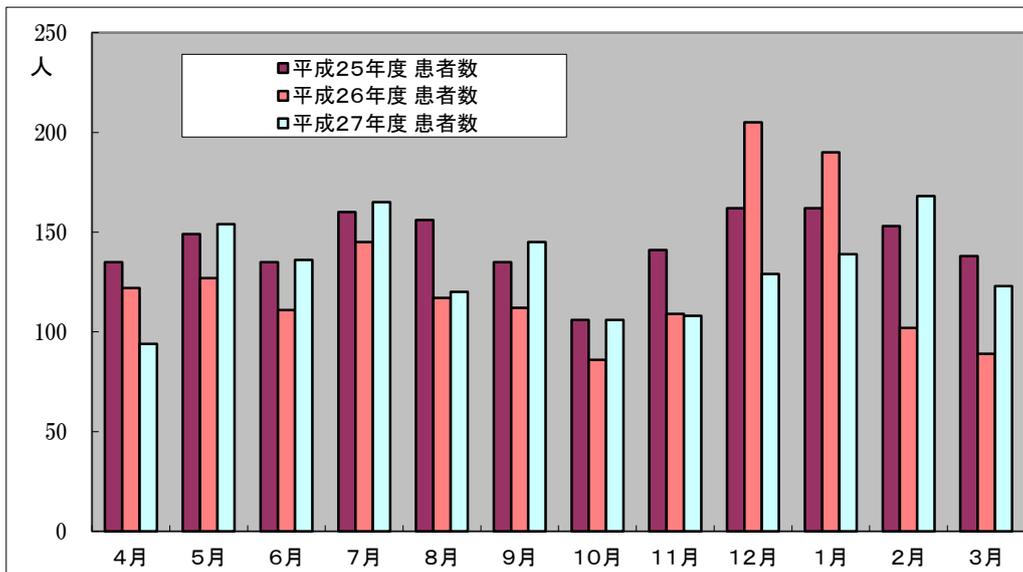
区内の歯科医療機関が当番制で、1休日に1か所で実施しています。（平成26年度はスマイル歯科診療所で実施）

平成27年度の年間平均では、1医療機関1日あたり2.4人前後が受診しています。

○実施日： 祝日、年末年始を除く毎週日曜日

○歯科診療時間： 午前9時～午後5時、歯科救急電話相談： 午前9時～正午

中野区小児初期救急医療事業



中野区小児初期救急医療事業患者数推移

中野区小児初期救急医療事業実施状況

	延患者数	1日平均患者数	電話照会件数
27年度	1,587 人	4.3 人	1,980 件
26年度	1,515 人	4.2 人	1,865 件
25年度	1,732 人	4.7 人	1,985 件

(中野区小児初期救急医療事業実績報告)

中野区小児初期救急医療事業は、一般診療所等の診療時間が終わった後の、準夜間における小児の急病患者に対して、初期救急医療事業を実施し、区民の健康を守るとともに、子育て支援を図ることを目的とする事業です。

小児初期救急医療の診療科目は小児科として365日実施しています。

年間の平均では1日あたり4～5人が受診しています。患者数の推移は、年別では大きな変化はみられません。月別で12月～3月に多いのは、インフルエンザの流行が大きく影響しています。

○診療日：毎日(土曜日、日曜日、祝日、年末年始を含む)

○診療時間：午後7時～午後10時 ○対象者：満15歳以下の子ども

○実施医療機関：新渡戸記念中野総合病院

中野区病児・病後児保育事業

中野区病後児保育事業は、子どもが病気やけがにより集団保育等が困難な時期に、専用保育室のある施設において一時的に預かることにより、子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成及び資質の向上に寄与することを目的とする事業です。

なお、ファミリー・サポート事業（病児対応（訪問型））も実施しています。

<病後児保育>

施設名	地域	定員	延利用人員		
			27年度	26年度	25年度
区立仲町保育園	中央	4	372	257	197 ※
聖オディリアホーム乳児院	上鷲宮	2	94	29	47
合計		6	466	286	244

※区立仲町保育園の25年度定員は3人

病気回復期にあり、医療機関による入院加療の必要はないが、安静の確保に配慮する必要がある子どもについて、2施設で病後児保育を実施しています。

- 対象者：生後6か月から小学校就学前までの子ども
- 利用可能日：月曜日から金曜日（祝日、年末年始を除く）
- 実施施設及び時間：区立仲町保育園 午前8時～午後6時
聖オディリアホーム乳児院 午前8時30分～午後8時

<病児保育>

事業者名	地域	定員	延利用回数		
			27年度	26年度	25年度
中野区社会福祉協議会	訪問型	—	429	378	292

医療機関を受診し、医師から在宅での保育が可能と診断されている子どもについて、家庭への訪問による病児保育を実施しています。

- 対象者：生後6か月から小学校6年生までの子ども
- 利用可能日及び時間：月曜日から金曜日 午前8時～午後6時
土曜日 午前8時～正午
（第3月曜日、祝日、年末年始を除く）

※今後の展開として、平成29年度から、江古田地域で病院に付設された専用スペースで病児保育の実施を予定しています。（定員3人）

当面の間は、出生数や保育需要の増加傾向が見込まれているところです。こうした傾向を踏まえ、病児・病後児保育の需要の動向を見極めていくこととします。

区民の「かかりつけ医」・「子どものかかりつけ医」の保持率等

<かかりつけ医>

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
28年度	73.3	53.8	58.4	67.2	70.3	78.4	92.5	93.4
27年度	71.8	65.4	58.9	69.3	73.4	65.8	84.8	86.2
26年度	69.3	51.1	55.6	61.5	65.7	72.2	85.1	90.3

(中野区 健康福祉に関する意識調査結果)

「中野区 健康福祉に関する意識調査」では、「かかりつけ医を決めている」（決めている・だいたい決めている）割合は、全体では平成28年度は73.3%で、経年では増加傾向がみられます。年代別にみると、年代が上がるにつれ増加傾向がみられ、平成28年度は20歳代の53.8%に対し、80歳以上では93.4%となっています。

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
28年度	49.9	31.3	23.4	33.8	41.3	60.4	64.4	75.6
27年度	49.0	20.8	17.7	26.0	45.4	60.9	65.9	83.0
26年度	56.0	12.5	27.3	40.3	54.1	65.6	70.6	82.3

(中野区 健康福祉に関する意識調査結果)

同調査による「かかりつけ医を決めている」と答えた方のうち、「かかりつけ医から健康についてのアドバイスを受けている」割合は、全体では約半数となっています。年代別にみると、おおむね年代が上がるにつれ増加傾向がみられます。

<子どものかかりつけ医>

子どものかかりつけ医を決めている割合 (%)

26年度	92.8
25年度	93.8
24年度	89.9

(アンケート調査結果)

中野区の1歳6か月児健康診査の受診者へのアンケート調査の結果、子どものかかりつけ医を決めている割合は、90%前後という高い結果となっています。

区民の「地域の救急医療体制が整っている」と思う割合

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
28年度	72.7	71.4	68.9	74.2	69.8	73.7	80.3	69.9
27年度	71.5	75.3	72.4	67.6	69.5	73.9	71.6	72.6
26年度	72.5	75.5	70.8	70.4	73.5	70.3	75.0	74.3

(中野区 健康福祉に関する意識調査結果)

中野区民へのアンケート調査の結果、地域の救急医療体制が整っていると思う（整っていると思う・ほぼ整っていると思う）割合は、全体では70%台前半となっています。年代別では、大きな差はみられません。

6 中野区地域医療検討会

1 検討会日程等

(1) 第1回中野区地域医療検討会

日時 平成28年10月20日(木) 午後7時30分から午後9時まで

会場 中野区役所4階庁議室

議題 「中野区地域医療検討会の設置」について
中野区における地域医療の現状と課題について
新病院に求める基本的機能について

出席委員数 中野区医師会5名、中野区5名、事務局1名

(2) 第2回中野区地域医療検討会

日時 平成28年11月10日(木) 午後7時30分から午後9時まで

会場 中野区役所4階庁議室

議題 新病院に求める付加機能について
・小児医療体制に関すること
・かかりつけ医による在宅医療の支援体制に関すること
・その他、地域医療に関すること

出席委員数 中野区医師会5名、中野区4名、事務局1名

(3) 第3回中野区地域医療検討会

日時 平成28年12月8日(木) 午後7時30分から午後9時まで

会場 中野区役所7階会議室

議題 地域医療機関に期待する機能・付加機能について

出席委員数 中野区医師会4名、中野区5名、事務局1名

2 委員名簿

	氏名	職名等
中野区医師会	山田 正興	中野区医師会 会長
	溝口 雅康	中野区医師会 副会長
	渡邊 仁	中野区医師会 副会長
	宇野 真二	中野区医師会 理事
	櫻井 英一	中野区医師会 理事
中野区	川崎 亨	中野区 副区長
	瀬田 敏幸	中野区 健康福祉部長
	寺西 新	中野区 保健所長
	野村 建樹	中野区 地域支えあい推進室長
	横山 俊	中野区 子ども教育部長
事務局	石濱 照子	中野区 健康福祉部副参事(福祉推進担当)